

2025 年は太平洋戦争終結から 80 年。朝鮮半島では、日本敗戦は植民地支配からの解放を意味しましたが、新たに分断を強いられてきた 80 年でもあり、日韓国交正常化から 60 年目の年でもありました。

この節目に、フォト・ジャーナリスト桑原史成さんの写真展「激動韓国 60 年」と関連イベントを開催します。桑原さんが記録しつづけてきた歴史的な写真を通して、日本と縁深い隣国・韓国の市民や社会が経験してきたことに思いを寄せる機会を作ります。

桑原さんが初訪問した 1964 年の韓国は、日韓国交正常化への政府間交渉が大詰めを迎えていた時で、その内容を屈辱的とした学生や市民が連日反対デモを行い、社会が大きく揺れていました。膨大な犠牲を生んだ朝鮮戦争（1950～53 年休戦）の傷跡も色濃く、韓国政府は日本からの資金やベトナム派兵（1964～73 年）をテコに工業化、近代化を進め、漢江（ハンガン）の奇跡に向かいつつあった時期でもあります。

1987 年には民主化宣言が行われましたが、その礎には命を賭して軍事独裁政権に抵抗し続けた大勢の人々がいました。本写真展ではこうした 1960 年代～80 年代の社会で懸命に生きる韓国の人々の姿を中心にご覧いただきます。2024 年 12 月に非常戒厳が宣布されたとき、これを阻止しようと市民が国会に駆け付けました。兵士の銃口にひるまず立ち向かって民主主義を守った背景にある歴史を理解する一助となるでしょう。

なお本企画は、生活クラブ親生会（生活クラブ生協の生産者団体）の共催、生活クラブ連合会の協賛を得て開催します。桑原さんは、1958 年に生活クラブ創始者の故岩根邦雄と出会い、生活クラブ誕生前夜からその活動を記録しました。講演ではその話にも触れていただくとともに、生産者の写真を集めてミニ展示も同時開催します。



<写真説明> 上：四月革命 5 周年の日、無言の学生デモ。1965 年／中央左：陸軍憲兵が、日韓国交正常化に反対する学生を捕らえた。1965 年／中央右：日韓国交修復に反対するソウル市民。1965 年／下：朝鮮戦争での避難民たち。ソウルの清溪川（チョンゲチョン）で 1965 年。

## 桑原史成(くわばら・しせい)

1936 年島根県生。東京フォトスクールで生活クラブ創始者・岩根邦雄と出会い岩根の晩年まで親交を深めた。市民セクター政策機構発行の雑誌『社会運動』への写真提供や生活クラブの活動も記録。1962 年に水俣の写真で報道写真家としてデビュー。他の主要テーマはベトナム、沖縄、ロシアなど。1997 年には郷里の津和野に「桑原史成写真美術館」が開館。2014 年に土門拳賞受賞。

韓国において桑原さんの写真は重要な歴史的記録として高く評価され、2025 年には桑原さんの写真から韓国現代史を追うドキュメンタリー映画「A Portrait of Photography」が完成。



## 電子書籍『韓国協同組合運動 100 年史』

2024 年刊、日本語版編集発行：市民セクター政策機構／発売：(株)ほんの木 価格：5,000 円（税別）

2019 年に韓国で出版された本を全編日本語訳。日帝の植民地支配や軍事独裁政権の過酷な統制下で協同組合の実践者はどう行動したか、また民主化以降 2010 年代の運動の広がりを見通す。試し読み、ご購入はこちらから→<https://cpri.jp/korea100years/>

■ お問い合わせ 一般社団法人市民セクター政策機構

東京都新宿区新宿 6-24-20-7F Tel 03-5292-5051 Fax 03-3205-3111  
mail civil@cpri.jp

